

第1章 家事は甘くない

私は数週間ですが、妻に代わって家事をしたことがあります。妻のシャーリーがスキーをしていて足を骨折したためです。その時、私は「家事」がたいへんな仕事であり、決して「甘くない」ことを学びました。

最初の朝のことです。ライアンは、母親業の初歩的ルールを教えてくださいました。大きな泣き声で起こされたのが6時。甘い夢の世界から揺り起こされた私は、ベッドからふらふらと立ち上がり、ライアンの部屋へと手さぐりで歩き始めました。その間ずっと、まるで爪で黒板をひつかくようなきいきい声が聞こえていました。部屋にたどりついて、ドアを押し開けたとたん、泣き声は止み、明るい声で聞くのです。

「パパ、朝ご飯、できたの？」

「今、一所懸命やってるからね、ライアン」

そう答えて、息子の口に合うものを用意しに、キッチンに行きましたが、体はまだまだほとんど寝ていました。眠い目を棚に向けて、何か手早くできるものはないか考えました。その間ライアンは、ベッドから抜け出して、私についてきました。息子はなんとか私を相手に話をしようとするのですが、こちらはごめんです。

「ねえ、ベーコン食べるの?」

「もうできた?」

「牛乳ないの?」などと聞いているようですが、無視していました。そのまま立て続けに何か質問をしていましたが、返事はしませんでした。やっと彼のことばに耳を貸そうとした時、彼はため息をつきながらこう言ったのです。

「パパって、ホントにもう、いやになっちゃうよ!」

私は妻に「この仕事に戻ってくれるなら、それ以上感謝なことはない」と言いました。

お母さんたちには本当に頭が下がります。健全で活気のある社会を保つには、彼女たちの仕事は大変重要です。しかし残念ながら、主婦の仕事は正當に評価されていません。そう言えば、この「主婦」ということばも、不満、劣等感、空しさなどのシンボルになってしまいました。社会にとつて、子育てほど大切なことはありません。

しかし「家事」は、女性たちにある種のストレスや欲求不満を感じさせるのも事実です。家事の得意な女性でさえ、時にはすべてを投げ出したくなります。ライアンのような小さな子を、1年365日世話しなければならないと、時には疲れてイライラするのもやむをえません。小さな子どもたちは、やかましく、集まればけん

かをし、信じられないほど散らかします。パンツを濡らし、家具を傷つけ…、四六時中母親の神経をいら立たせるのです。

「私は、一体ここで何をやっているのかしら」と時おり、つぶやくことなしに子どもたちを育て上げられるとしたら、その母親は実に立派な女性です。

女性にはまた、男性があまり抱えない問題やプレッシャーがあります。家にいる主婦は特に、大人と話す機会が少ないものです。もともと人と触れ合えるようになりたいと、切実に願っています。若かった頃の、笑いや愛、そしてロマンチックな瞬間をなつかしく思います。テレビのメロドラマにのめり込んでしまうのも、誰かの人生に関わりたいという願いの表われです。主婦はあまりにも孤独です。それは決して、些細な問題ではありません。

ある女性からのお便りに、次のような言葉がありました。これは多くの女性たちの気持ちを代弁しています。

「うつになる原因は、ほとんどが夫とのコミュニケーション不足です。問題を解決しようとしたり、話し合おうとすると、夫は貝のように口を閉じます。何かを話そうとするといつでも、ひどく嫌がります。夫婦の間に何も問題なんか無い、と思っているんです。」

本書は、男性を非難する本ではありません。しかし、あまりにも多くの夫たちが、

妻の心の必要を理解していないのも事実です。夫は、妻とは別の世界に住んでおり、自分自身が抱える不満でいっぱいです。妻の立場に立って妻がしているのを見たり感じたりすることができないか、もしくは仕事に夢中で耳を貸しません。いづれにせよ、女性が必要とするものの中には、男性が理解しにくいものがあります。本書を書くことにしたのは、夫婦が何とか理解し合うことが必要だと思ったからです。本書では、家族と家庭生活の中で女性が抱える問題について述べようと思います。女性たちが直面する問題や欲求不満には、必ず解決策があります。また、女性の感情について説明し、それが日常生活にどんな影響を与えるかについても語るつもりです。本書の主な目的を挙げると、次のようになります。

- ・ 妻が憂うつになる一般的な原因と、その解決策を明らかにする。
 - ・ 妻が自己評価を高め、自分を今以上に受け入れるためのヒントを示す。
 - ・ 妻が孤独感を取り除く手助けをする。
 - ・ 妻が女性特有の必要を夫に説明できるように助ける。
 - ・ 本当の夫婦愛とはどういうものかを示す。
 - ・ 妻の日常的なイライラを、具体的に解決する。
 - ・ 今以上に素晴らしい母親となる秘訣を示す。
- では、まず女性の憂うつの原因から始めましょう。